校種：中学校　　対象学年：３年　　教科：社会科（歴史的分野）

「拉致問題」の解決のために、自分にできることを考えよう

**１　単元名　　歴史に学び、未来へと生かそう（東京書籍）**

**多面的・多角的に構想する　未来に向けて（帝国出版）**

※公民的分野でも活用できます。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　５　新興国の台頭と経済格差（東京書籍）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　７　国際社会における日本の役割（帝国出版）

**２　本時のテーマ　　「拉致問題」の解決のために、自分にできることを考えよう**

**３　本時の目標**

|  |  |
| --- | --- |
| 知識技能 | ・「日本人拉致問題」に関する基本的な認識をもつことができている。・問題の解決に向けた政府や人々のこれまでの取組について理解している。 |
| 思考判断表現 | ・リーフレットやホームページから、これまでの政府や人々の取組を見つけ出すことができている。・拉致問題解決の方向性について理解した行動計画を作成している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ・リーフレットや拉致問題被害者家族のビデオメッセージを意欲的に視聴している。・自分なりの行動計画を作成し、今後の行動に対する意欲を高めている。 |

**４　展開例**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 主な学習活動 | 予想される生徒の反応 | 教師の支援・指導 |
| つかむ | １　リーフレットを読み、日本人拉致問題の解決について考えていくことをつかむ。 | ・ニュースで見た。・集会に参加したことがある。・小学校の時にも学習した。 | ○　リーフレットを読み、日本人拉致問題について、意見を交流する。その際には、以下のことを押さえておく。・北朝鮮の地図上の位置　・年表を使い、拉致問題の経過や一部の被害者の帰国が実現したことなどを確認しておく。　・北朝鮮の一部の指導者が原因となっているが、北朝鮮の人々は悪くないことを押さえておく。 |
| ２　拉致問題被害者の家族の思いを知る。 | ・家族の人たちの思いをはじめて知った。・今も帰ってこられないなんてひどい。・何とか家族に会わせてあげたい。 | ○　学習用タブレットで、「政府拉致問題対策本部ホームページ（[www.rachi.go.jp](http://localhost/)）を開き、　「拉致被害者ご家族ビデオメッセージ」を視聴する。 |
| 考える | ３　拉致問題解決のために、自分たちにできることを考える。 | ・拉致問題について、ホームページで調べる。・「拉致問題を考える集い」に参加してみる。・「拉致問題に関する中学生サミット」に応募してみる。・「北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール」に作文を応募する。・署名活動に家族と一緒に協力する。・ブルーリボンを身に付ける。 | ○　まず、拉致問題を引き起こした北朝鮮指導者の意図（目的）を考えさせる。【意図（目的）】北朝鮮と韓国を統一させるために、日本人を使って韓国でスパイ活動を行おうとした。○　また、考えるヒントとして、北朝鮮指導者が日本人の拉致問題を終わったことにして、忘れさせようとしていることを伝え、日本の人々が今も拉致問題を勉強し、何とかしたいと思っている事を北朝鮮指導者にアピールすることが大切であることを伝える。○　リーフレットやホームページから自分たちにできそうなことを調べさせる。 |
| まとめる | ４　拉致問題の解決に向けて、自分にできることを計画する。 | ・活動をしてみて、どうなるか期待したい。・少しでも役に立てたらうれしいだろうな。 | ○　これからの１年間で、自分で取り組むことを、一人一人に自分なりに計画させる。○　過去の作文コンクールの入賞作品も参考資料にすることができる。（[www.rachi.go.jp](http://localhost/)）○　計画を立てられたことをほめ、生徒たちの行動への意欲を高める。 |

**５　資料**

（１）拉致問題をめぐる出来事について

①シン・グァンス事件（1980年）

　　…日本人（原さん）を北朝鮮に連れ去り、原さんになりすましたスパイを韓国に送り込んでいた。この人物が韓国で逮捕され、このことがわかった。

②大韓航空機爆破事件（1987年）

　　…韓国の飛行機が北朝鮮のスパイ（工作員）によって爆破された。そのスパイが逮捕され、北朝鮮に連れ去られた日本人（田口さん）に教育されたことを話した。

③亡命工作員の証言（1986年）

　　…韓国に亡命した元北朝鮮のスパイ（工作員）によって、日本から北朝鮮に連れ去られた人がいることが語られた。（リーフレット表紙の横田めぐみさんと思われる。）

④北朝鮮からの手紙（1987年）

　　…ヨーロッパで行方不明になった人（松木さん）から、北朝鮮に連れ去られたことが書かれた手紙が家族の元に届く。

（２）人権教育に係るリーフレット「北朝鮮による拉致問題を知っていますか」について

　　　　このリーフレットは、「佐賀県議会北朝鮮拉致問題早期解決促進議員連盟（“拉致議連”）」と「北朝鮮に拉致された日本人を救出する佐賀県民の会（“救う会佐賀”）」によって、令和５年に作成、配布されたものです。「日本人拉致問題」については、小・中学校の社会科「学習指導要領（平成２９年告示）解説」にも示されています（小学校１２８ページ、中学校１２１、１６１ページ）。日本人拉致問題を教える際にぜひご活用ください。

（３）「拉致問題被害者ご家族ビデオメッセージ　～必ず取り戻す！愛する家族へ～」について

◇全体版（４０分２６秒）

◇田口八重子さんの御家族メッセージ（５分２秒）

◇横田めぐみさんの御家族メッセージ（３分３４秒）

◇曽我ミヨシさんの御家族メッセージ（３分５秒）

◇松本京子さんの御家族メッセージ（３分６秒）

◇市川修一さんの御家族メッセージ（２分５４秒）

◇増元るみ子さんの御家族メッセージ（４分４３秒）

◇松木薫さんの御家族メッセージ（４分９秒）

◇有本恵子さんの御家族メッセージ（５分１１秒）

（４）拉致問題の解決に向けた政府の取組

◆日本人拉致問題に関する資料の作成・提供（ホームページ）

◆「拉致問題を考える集い」の開催

◆拉致問題に関する教職員等研修　※毎年、県教育委員会で参加者を募集。

◆拉致問題に関する中学生サミット　※中学生対象。毎年、県教育委員会で参加者１名を募集。

◆北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール　※中・高生対象。毎年、募集。

◆署名活動　　　◆ブルーリボン運動